858
37

雛鶴源氏物語

五

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用

858-37

雛鶴氏五

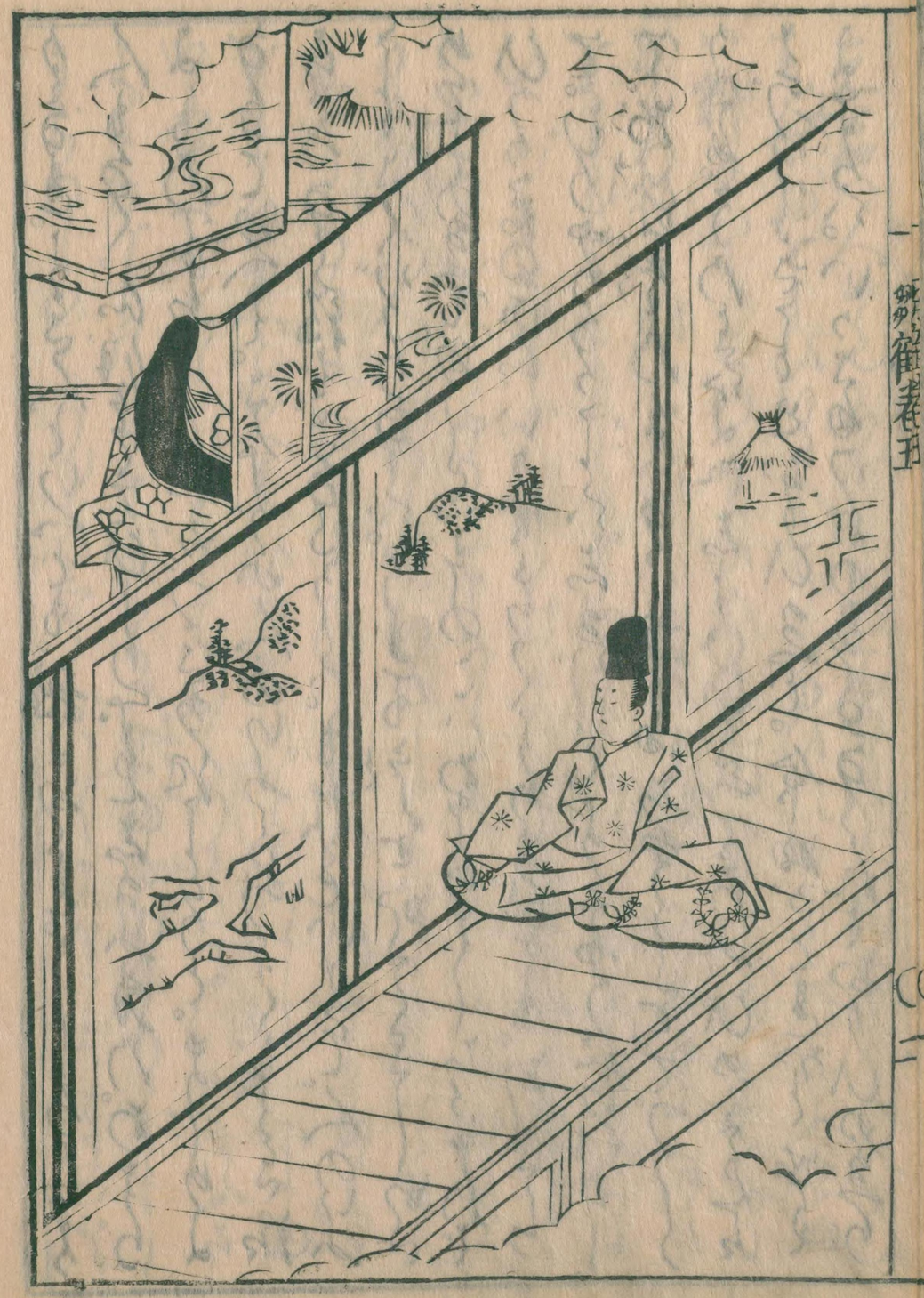
雪乃光に恐しかるち

帝國圖書館

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用

源　いくらうたびこゑうたぐやりしやけつるん
ものなりひうといそぬるのかたりし
○たぐ海とは童のたりゆまるは、ひどんとおとなるんと
いひわけて、ひどんくそ、志海よりひつくとひて
なかなりともうらはして、そのくらは、物をいふにはあら
なくさかだとなり、ひつさやうたぐ海とは、ひどん乃
ことなり、ひめさかたは、ひとんそおりしやすよどる
ゑはいくらびとなく、ものをいひかけまひらするはこのやう
乃おりひの出門なるゑ也へぞ　せめてなどものたりゆまの
ことくに出れないひうとなりとものまゐ、その此ことゑ
とさてそうれをおりひ出すしてもやひべとなる、さも
のまゐぬゆへよ、いくらひもよけて、ものをいふぞと
なり

せめて乃なるは、物なりひうとびうもいひすてまへよりし
玉ゑもさらうしとの給　川方おもひはおもひすとやはいひとてね　姫
君乃はめれとは仍居とて、うりさなる　如ひうゑ乃わりしが
ひめ君の迎あしゝあはぬを、さのどくはおもひさしよりて
猪つさてうらものいふなとしらんもさすがなりうくく
こゝへさうこさそうつはあやなゑ
此、いくさて、ゑ乃おもくしからぬをひめ君はにせて
いひなせば、つゝのおりれはもてなしまは、さういし
て、うは勇しくはおもひなれど、めづしなる、一ゑ
よ、おくこなる乃口をかくがうんらすうゑとて
源　いそぬをいつまは海さらせ、ありなぐし
いそぬはいつまはさらといふなはよくたりなひてもあまりまものを
としこあらうはくらしうりなり
のまゐぬはくらしこさとなり

どこうらうり出しまゐゆら。うハさと美(ぶつ)とうり交(ヤセ)
て。さ面くくどうせまへども。うさ〇て此とさへもなけき
だ。りしまるかるよ。心をうけしまゐもありて。かくも
つきなさまやと。ふ志んよりゆら私だ。私さまし
こさんもつさて。さうじをむりよをしあけて。内へいり
まゐ。今物ハ重せ三寶(みむさんぶう)人ゆぶんをさせまひて。是
毎ごとハあらじといとをしたれだ。志らぬかほまて
うろりとうまげてつか〇へうくまいりまゐる。かゝ乃うし
もとごとハ。ひかる君の世まゐでひなき。此志なしま
つ見ゆるさわて。こゝりくしたもいひさつゞず。毎ぐひめ
君のなるのは心がけもなく。まいりなる事にて。ことにを
じめての床入(とこいり)を。いかほとうしあけるよ〇にて
も。どうやらおうろしきものなるを。いくせさせかふ

らんと。此心乃うらおしまゐしまて。こさのかくに思ひゆるり。ひめ
君を物も見えをもなくまづうしくはしまりしさよりかゝ乃事
なし。そ君も。さすがあいまゐ。人なれぬ世へどと見ゆるし
まへど。人乃うらハ。あらましまさづりまも志るさも乃
なれど。どこやらんえぬるどもあまバ。よりやつまゐ一をいい
くりせて。かゝ乃人をかさうへさらにをあらじ。さすがにひ
さら乃ミやれはしまゐなれ。今まうしまゐらもよかの
らんとおもひしに。さらひさらまどもなれど。此心も思ひ
ぞうらなげかまて。よふかく出まゐ。今ぬハいうなんとまう
ふとして。つが〇よ見てをとまりてこさゝわたれぞも
いまかつらせまゐを志りがほよ。まゐらいでんもいかゞなれど
此見をうりもせず。そ君も。さすびやうに出まひ。二条院(にてうのいん)へ
かつらをまひてうらうしなりし。あまつらうらうる

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37
ガラス使用

ミヤ乃中ゑ。うつくしきよ○を見ろめたらばとおもひ
しまゝ。そんしの乃かゝるゝともうゐ。とくゝゆるゝなれ
世乃中ぞかしと。なりひつゞあて。うろくしき人なら
ねど。このまゝにて。うらさそんもいかゞとこのどくに。思ひ
ゐぞふまふおりかし。頭中将は見まひまゐらせて
ゐ。こまゝ〳〵つゞとなひ。はあさ○うゐ。さゞめてこけ
わらんとのまへだ。光君。おさゝせまひて。ゆやさき
ひとり祢乃とこに。ゐけうざすぐして。あさ○志つゞ
内裏よりすぐまは出かと乃まへだ。なりほどさふくは
朱雀院乃行幸。楽人。雛人乃すぐも。さゞめらゐ
夏さまし。夜アおほを出されしかば。おとゞにもこ乃
ことゆさんとてよいりほと。いうがしあるわだ。さらば
りまて。は同ゐいるさんとて。はりゆこは仮もちどもうり

さまりしめて。は車ハ引つゞあるれど。ひとつは乃まゐ。
祢ゐたげなりとうゐて。やうくまは乃まゝ。よハかうしまつる。
わりと。頭中将はかしめしとおもひさるあしこさるゐ。雛人
楽人乃すゞや。おほさゞめらゐ。日して。一日内裏よく
らしまふ。ひめ君の御方へハ。さんとゞふと思ひ出して。ゆふ
つゞ。清かはさる。雨かりてよれ笠やどり不なきども。こゝげ
かしは出あらんも。おもひよりまはぬは。はんまつゐなり
夏し。かしこまは。ゐまら乃がもすさゐけど。合物もさの
どくに思ひたり。ひめ君もよべ乃す。はんのうちまおもひ
つゞあてまづしく。と紺の御ゑれくりまでこゑとも
なまともおもひまけまハざりなり。はゝまは
こよひもまゐりたんが旬かりいでゝ乾弓まれ
かどもゐもとなく思ひ出しし

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用

ゑろうひもなくうらおよまひて。いかふせふくんと。心のうち
わいまでも。おかしくもおりひやうまつふ。かくことを。乃ら
くへといふなん。おかしなどしかくゑうめまば。すへくよりし
おりひすてじゆ。かくおりひさごめまふ。うゑにてろを
ひめ君のはりこまは。おりまゐ〇が。かくわりうめて。なげかし
うおりひまつり。おとゞよにいりて。内裏をまりてまふかり
さうりいて。あふひのうへ乃はまへまいりまふ。行幸乃
ことをそうわくんとおりしろく。おほして。君をあげまり
て。をのく辞じもなくひまふを。うゑこれやくけして
日かすもすぎゆく。琴笛乃音も見てまちがわくりて
かしまいく。つ〇のはなるびとはかいりて。たひち里女
天ハ乃ふえなどの。大ぞ忘をめさわげつて。太敷をさへ
ううらんのもよ。こゝろじしよせて。まづうらなら

らして。わうびまふ。光君もかくあるべきものはいと思ふく。たん
義まはくおしくおほしめすうへこそ。男をぬまじやうけして
志のびありこさもたまへ。この乃ひめ君のわくりへはおりひ
もよらず。材もくまとうはまば。いよくこの乃ちよくなくて
出しまふ。行幸乃日も。ちかくなりて。内裏にてあく
ろ見乃楽ありと。乃くだはこゝろまぐ。余姉は里より
まいりなり。光君。さいくへしぶりなやひめ君をも
いかなしまふとこゝろせまへば。なげかせまふ。なるくり
て。かく見うめさせまひて。なぐりなくうらふまさせ
まふは。かゝかくゑろめもくろしきよ。御しては行
まいりとし。ワゞ男乃さのどくさなげなくづらな
いふ。光君も。心あくこさはしにて おりひとまねと。余
姉が。くまいくいひしものを。もらねずして。いまさら

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37
ガラス使用

ろすまとうんまでいへ。そのあとちやうんのうちやうよりおほせのかうぶりものまでいとうるはしくしたてゝ。ひめぎみにもかくとつげやりたまへば。ひめぎみもいとうれしくおぼして。ひめのおとゞのもとへ。ふみをつかはしたまふ。ひめのおとゞもいとうれしくおぼして。ふみをとりあげてみたまへば。ひめぎみのおほせにて

なし。かの夕かほのうへを。いさなひいさしまひし夜。
ものよおろかましとりのな。おりひいざさわて。どうや
らさんりけく。わまさ海さ風ハ。その所まもおろ
孫ど。せまるて。人ぶ乃まとらしわるぞ。心づきさゆう
なれど。そおくて孫もゆします。ひめ天の。心わな
さ海よ。うつくしくおしまさば。わりまさおりし
ろく。一しかんを上海ぶさよのそしさなるに。出ぶ
ひとへよ。地とづくしささ海のとにて。なふのけうもなく
くらおしとおぼお。ゆかくよもわけぬるあしさる
まだ。格子てづくしわげなひて。庭の雪を見れ
よ。ふ見わけさるわともなく。とるくと。わまりさりて
さびしぶなるよ。立いでゆんもありけしして
おりしみな元のあしさを見なへ。いつまでもの

そじしてぬを風さてなふそと。うしろ見なふさ風ぶ
かのくらあれど。雪れひかるよいよ〳〵うつくしく。ぴう
う見てさせなるを。ふる女房さらへ。ゑとさらへて
見さてまつる。こゝやく出させなへ。ゆうつくしきこう
よけまるぞ。とし風まひしきゆれど。ひめ天へさすがに
人乃ひつこと。もとさなれ山ぬて。ひさつくろひてお
なつり。光天ぞ。見ぬかりさて。こちらむさてなへど
も。ちりめへてぞなしず。うしとけて。さとうしなりとも
見風さりせば。いかづりうましうしんとおひなふ
よげ居ぶけさく。とせなぶよ見てなふよ。さねどこう
と。ひみもつづまね。うらつぐきて。こねをかさまれ
おどろうる地へ山とるなりなり。ぬぶんがさけ乃
のまを地れゆうよ。なぐくのびくとして。さぶハすに

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用

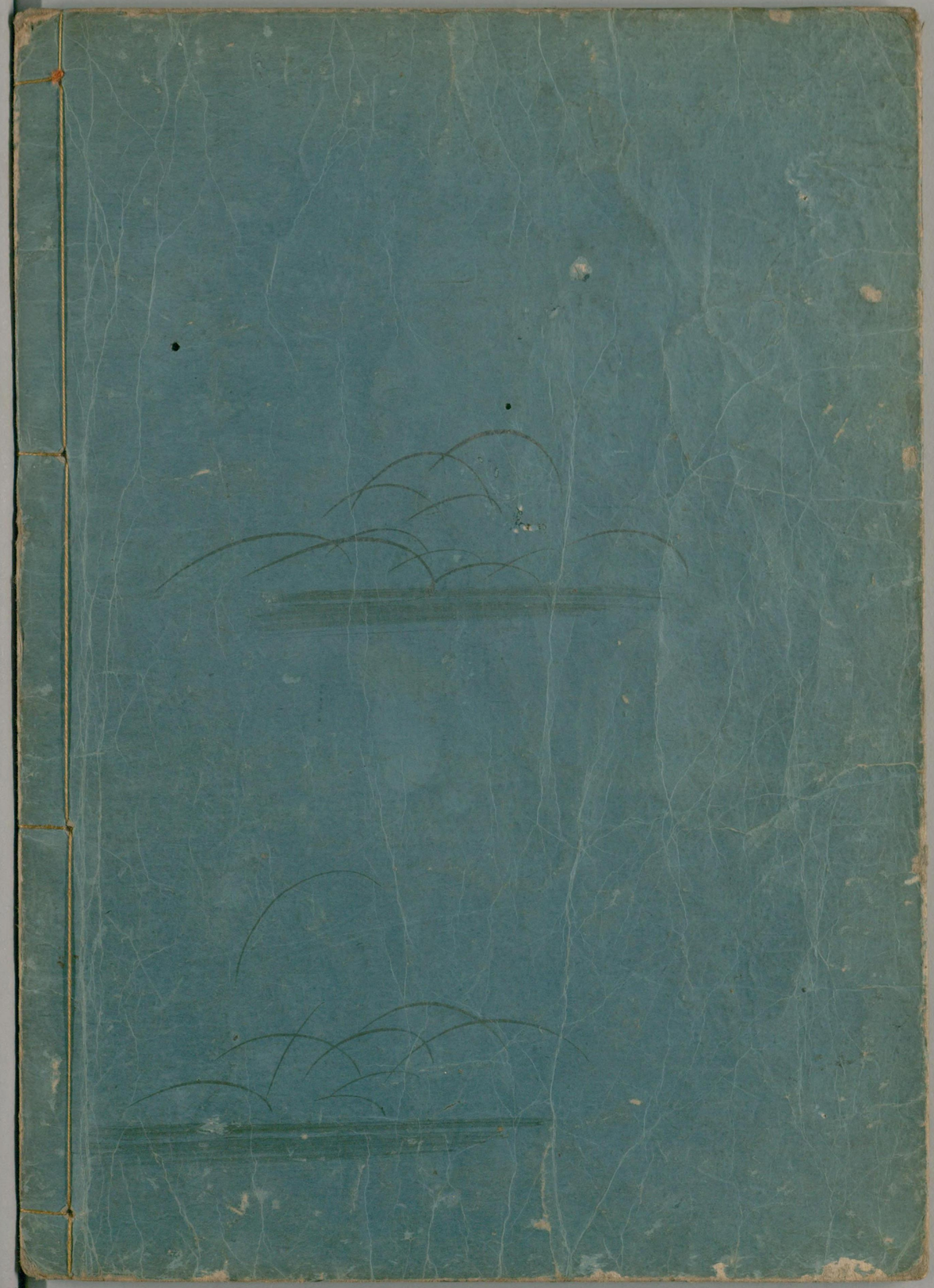
国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用

858
37

国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『雛鶴源氏物語』　請求記号 858-37

ガラス使用